

【所属名：環境生活課】

【会議名：第3回糸魚川市環境審議会】

会 議 録

作成日 平成 26 年 2 月 3 日

日	平成 26 年 1 月 31 日	時間	13:30 ~ 16:00	場所	本庁 201・202 会議室
件名	議題 糸魚川市新エネルギービジョン（案）について 糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間答申（案）について (公開)				
出席者	【出席者】 13 人 佐藤委員、鷺澤委員、磯貝委員、小笠原委員、小野委員、恩田委員、黒崎委員、腰越委員 笹川委員、杉野委員、山岸委員、山本委員、吉田委員 【欠席者】 1 人 田村委員 【事務局】 吉岡部長、渡辺課長、高野係長、小熊主査				
	傍聴者定員		人	傍聴者数	4 人

会議要旨

- 1 開会 進行 渡辺課長
- 2 会長あいさつ 佐藤会長
- 3 議事

《主な質疑・意見》

・糸魚川市新エネルギービジョン（案）について

【委員】 市が目指す将来像に「豊かな資源」とあるが、この地域における豊かさとは何か。

【事務局】 温泉等での地熱発電。日本海側独特の風や長い海岸線を使った風力発電。森林が大半を占める当市での木質バイオマスの活用などが、豊かなという表現と考えている。

【委員】 糸魚川は北アルプスに代表される山や、黒姫山の石灰石がある。どうやって活用するのか。文章では豊かさの活用という部分が見えない。セメント会社も水力発電により安価な電力で成り立っている。ビジョンの内容に豊かな資源の活用という方向性が見えない。

【事務局】 豊かさのとらえ方の違いもある。地産地消の考えもありこのような表現とした。適切でないとすれば他の言葉に置き換えていきたい。委員からご提案いただきたい。自然の多様性もあるので、「多様な」という表現も可能かと考える。

【委員】 新エネルギーの導入目標は、糸魚川の地域性が出ていないと感じる。この地域ならではの新エネルギー活用がある。調査だけのような気がする。

小水力発電が巷では話題になっている。河川の規制などもあり、大規模なものはダメでも、用水路などを使う施策もある。そういうものをあげてほしい。モデル地区をつくる方法もある。

【委員】 行政が受け身になっている。共にやるというのならまだいいが、事業者がやるのなら市もやるという雰囲気になっている。

【事務局】 以前の計画では、海洋エネルギーなど技術的に可能であるけども当市にそれができるのかという問題があった。今回は計画年の10年で可能な物を中心に、どの程度のエネルギーがあるのか把握をしたいというのがこの計画の大きな目標。そういうものを把握し、公共の利用や民間の利用に役立てたい。そういう理由で先のことの記載がない。

【委員】 今の回答を導入方針の一番に入れてほしい。山や水などの糸魚川の豊かな自然を活用するというように入れればいい。調査するということが大事なのでその内容でいい。

【委員】 糸魚川市は資源が多い。枯渇することはないというが、ないからこそ、市民にこのビジョンを示して行ってほしい。雪室などの利用も全国で始まっている。平穏なことも大事だが、もう一步踏み出して、これからのエネルギーに活用する考えを持ってほしい。

【委員】 導入目標がギガジュールという書き出しだが、分かりにくい。数値を見れば現在の5倍程度と分かるので、注釈としてそのような記載がいいのではないかと。ギガジュールなどの単位がわかりづらいので、もっと分かりやすい場所に記載があった方がいい。

16ページと34ページの数値に違いがあるが、どのようにみればいいのか。

【事務局】 表現方法はご指摘のとおり分かりやすいものにしていく。専門用語なども多いことから巻末に用語集を付けて行きたい。16ページは最大出力を表示している。34ページは発電量を載せているが、家庭向きの物の実績データがない。目標となると統一してできるものがないので、持っている情報と理論的な数字をあわせたものを記載している。

【委員】 数字を見てみると太陽光発電頼みという感じになっている。実際の発電量が把握できないことは分かるが、10年先なのに何も数字がないのはおかしい、数字が無理なら具体的に言葉で入れてほしい。このビジョンもメンバーが代わると内容が引き継がれないことも考えられる。なるべくはっきりと記載して行ってほしい。

【会長】 これらの詳しい説明は必要と考えるので、加筆して行ってほしい。

【委員】 豊かさという言葉はいいと思うが、施策の方向性に豊かさの部分がない。調査など

をして、よければ取り組むという文面を入れていってほしい。

【会長】 皆さんの話の内容に大差はないと感じている。調査していくということを文面に入れていくことが、環境審議会の意思になる。これまでの意見は市に対するエールと取り、豊かな地域資源の活用という方向でいいと思うがいかがか。

【委員】 豊かさと多様性は意味が違うので、豊かさという言葉がいい。いろいろなものを表現するために豊かさという言葉が集約している。

【事務局】 豊かさという表現については記載のとおりとすることと、山や海などの大切な物を、もう少し反映できる表現に本文を修正する。

【委員】 地熱とか水力とか、具体的な表現を文面に含めてもらえば読む人に分かりやすい。実施が有力なものに絞りながら。

【委員】 発電分野の総合評価の高い順に考え、太陽光に傾いた内容になっている。調査の表現が多いが、具体的にどのような調査を行うのかというところまで書いてないと10年後の成果が見えてこない。今日、上越市では雪室の実証実験という報道もあった。

【委員】 導入可能性調査は、各種調査結果等を参考にしとしか書いてない。段階を踏んで進めないといけない。

【事務局】 38ページの表記は、国県の調査を参考に何かをやるというのではなく、それらの調査を参考に市として新たに調査するという意味。既存データを当市にあてはめて何かしようということではない。

事業化について、次年度は地熱発電の可能性調査、小水力発電の市内全域の可能性調査を実施したいと考えている。その調査により発電等の可能性があれば、その時点で中身を見直し目標数値や実績等が入るものとして理解いただきたい。

【委員】 プロジェクトは新たな部署をつくるのか。庁内委員会か。

【事務局】 エネルギー担当部局が中心となるが、実際の実施は担当課というふうに考えている。

【委員】 木質バイオマスはペレットしか記載がない。地熱発電では設計・施工・発電事業までである。逆に、ない方がいいのでないか。調査で終わらせないと、目標でここまで行くということになる。

【事務局】 ただちに可能性があることが確認できれば、事業主体は別として、すぐに取り組める場合もある。不確定要素が大きいので、どこまで具体的に書くかは課題。

【委員】 スケジュールが全部同じ。可能性のある所を重点的に、調査を始めてみてはどうか。

【事務局】 地熱と水力は来年度、調査に着手できそう。その後は決まっていない。

【委員】 木質バイオマスは資源の中に人材もある。山の間伐は雇用が確保される。間伐材などの量を調査して進めなくてはいけない。人材についても講習会をやるだけでなく、

新エネルギーの分野も入れていかないといけない。

【事務局】 記載方法を検討する。

【委員】 15 ページの CO2 の吸収源対策が、温暖化対策の項目には記載されているが、新エネルギービジョンには省略されたまま。統一した方がいい。

【事務局】 考え方は同じなのだが、修正が間に合っていない。修正する。

【会長】 この先、進めていく中で課題となっているものに対処してもらえば、実現性がある。例えば、川は変動があるが、水道などは安定した水量が確保できる。そういったことを検討して行ってほしい。エネルギー量は利用方法などにより違いがあるので、プロジェクトとして前例ならいいが、全体量の違いを踏まえて進めてほしい。

【委員】 審議会として木質ペレットの見学会を実施してもらえないか。次回でもいい。

【事務局】 相手の様子をお聞きしご案内したい。

【委員】 8 ページ、17 ページ、34 ページの木質ペレットの生産能力の記載が異なっている。生産能力の向上とあるが、1,500 トン以上の生産も条件により可能なので、記載方法を検討してほしい。

現在は山の所有者がわからない。木を切り出すのにお金がかかり出せない。バイオマスの燃料となりお金として入ってくれば、山に手を入れられるという良い循環がある。

【委員】 導入プロジェクトでは、間伐したものを全て放置しているような書き方だが、全部放置しているわけではなく、利用できない C 材は現地に残しているのでそれを使うということ。

【事務局】 数字は前回お示ししたものが誤っている。今回説明の数字が正しい数字なので、修正させていただく。放置の表記も適正な物に修正する。

【委員】 道がないと木を出せないの、そういうものと組み合わせて進めていかないといけない。

【委員】 山に道をつくるとすぐに舗装してしまう。舗装はいらない。

【委員】 標記は、市民、事業者、行政という順で行政が一番下になっている。行政の消極的な部分。公共的な書き方では逆にするのは難しいか。

【事務局】 市民が主体ということで先に書かせていただいている。一般的にはこのような標記になる。

【委員】 55 ページの図は、上に国、県があり、昔からの上意下達のようなイメージになるので、横並びにならないか。

【事務局】 修正する。

【委員】 導入スケジュールは優先順位を付けるという意見があったが、それに賛成。10年間のスケジュールを表にして示す必要がある。

【事務局】 今後、若干の変更があるかもしれないが、現時点の予定表をお示しする。

・糸魚川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）中間答申（案）について

【委員】 産業・運輸部門が増加している。市内のセメント会社がどの程度のウェイトを占めているのか。セメント会社の今後の事業に関する意向を聞いてみたかどうか。

【事務局】 比率の資料はあるが今は持ち合わせていない。セメント会社の意向を反映しているものではない。推計数字は当市単独での推計は技術的にも難しいことから、県レベルで排出量の数値があり、人口や所有車の台数などから割り出す手法。市の状況がストレートに反映するシステムになっていない。

【委員】 本音と建前だが、人口予測は減少で行われている。市長の公約として交流人口を増やすとあるが、その辺の考えは盛り込まなくていいのか。

【事務局】 市長公約は反映していない。市ではいろいろな計画を作成しているが、計画をつくる上で基準となる人口推計が決まっており、そういった数値を基に作成している。

【会長】 地域の特徴ある内容にしてほしい。今後、何か気付いた点は事務局に報告してほしい。

【委員】 議会説明してから答申になるのか。審議会で答申しても議会でダメと言えればダメなのか。

【事務局】 答申は審議会がするもの。議会の意見をお聞きし反映できるものは反映していく。パブリックコメントの意見も同様の対応となる。最終的には市長が決めるものであり、議会は意見をお聞きする場。

4 その他

5 閉会 鷺澤副会長